

【講評】

～2020 年度の筑駒国語の解答指針～

□ 随筆 伊藤 亜紗 『ゼロとお寿司』

筆者は、自身のアメリカでの生活体験から、人は自分や他人のしっばいを通して、自分にとっての「当たり前」を相対化できるのであり、それが性別、人種、国籍等の違いを尊重する寛容の精神を身につける第一歩になると述べている。

問一 ——①「別の観点からすれば『せいこう』だ」といえる理由を説明する設問。

柱にぶつかることは、目の見える人にとっては「あぶないこと」だが、目の見えない人にとっては、柱のある場所を知るための「知覚方法の一種」である。

ある一つの出来事が、ある面では「しっばい」だとしても、見方を変えると、それは新たな知見を得て、今後に生かせるきっかけとなりうるから、「せいこう」ともいえるのである。

なお、「せいこう」と「しっばい」が、平仮名表記で「 」でくくられている理由についても考えてみてほしい。

問二 ——②「何が『柱』だったのか分かった」とあるが、この例ではどのようなことを「柱」と表しているのか説明する設問。

筆者がアメリカの美術館で居住地の郵便番号を英語で伝えようとしても通じなかったという「しっばい」の原因を「柱」と表現している。

筆者は「0」の発音をまちがえていたのである。数字の「0」は、アメリカでは「ズィーロウ」という感じで発音するのが正しいのに、筆者は「ゼロ」がカタカナ英語だとは知らず、「ゼロ」と発音していたことが、郵便番号が伝わらなかった原因だったのだ。

問三 ——③「逆もまたしかりである」とはここではどういうことか説明する設問。

「逆もまた然(しか)り」とは、「逆もまたそうである」、「逆もまた同じである」という意味の古い表現である。本年度はことわざを題材にした漢字の書き取り問題が出題されなかった代わりであろうか、読解問題の一つとして古い文語表現を絡めた問いが出題された。

さて、——③の前の部分では、筆者がアメリカ流の「0」の発音や酒類の販売方法を知らずにしっばいしても、現地の人々が寛容に対応してくれたおかげで恥ずかしい思いをせずに済んだことが書かれている。一方、——③の後には、現地のお寿司を食べ

て「日本のとはなんか違う」と感じて、日本の本物のお寿司が食べたいとだだをこねる息子に、筆者が自分のしっばいと現地の人々の寛容さについて話したところ、息子が、「本物／＼にせもの」、「いつもの／＼へんな」という二分法がいかに人を傷つけるかに気づいたということが書かれている。

つまり、「逆もまたしかりである」とは、日本人である筆者がアメリカ流の「0」の発音や酒類の販売方法を知らずにしっばいしても、現地の人々が寛容に対応してくれたように、日本人も日本の寿司とは味の違うアメリカの寿司を「にせもの」とか「へんなもの」と考えるのではなく、たくさんある寿司の一つとして理解すべきであるということである。

問四 ——④「自分をひろげる」とはどういうことか説明する設問。

——④を含む段落から文末にかけて、人は、自分や他人のしっばいを通して、自分にとっての「当たり前」を相対化するチャンスを得るのであり、それが相手を知り、「自分をひろげること」につながり、ひいては、性別、人種、国籍等の違いを尊重する寛容の精神を身につける第一歩になると、筆者は述べている。

つまり、「自分をひろげる」とは、固定観念にしばられている自己が、しっばいを通して「当たり前」を相対化することで、多様に存在する他者や異文化に対する理解を深め、寛容の精神を身につけていくということである。

㊦ 物語・小説 朝倉 かすみ『ぼくは朝日』

小学四年生の少年「朝日」は、自分のランドセルをカッコいい古びたランドセルのようにするために階段に放り投げるなど乱暴に扱って、姉にたしなめられる。律儀で真面目な姉に「そんなことをしたら、お母さんが悲しむ」と自分の産んだときに亡くなった母を引き合いに出して言われるたびに、朝日は自分がこの世で最も悪い人間になったような気がするのだった。

問一 ——①「わりと本気の声で言った」理由を説明する設問。

島田さんは父の長年の友だちで、二年前のオリンピックにも出場した現役のスキー選手であるが、成績はふるわなかった。父はそれを「パッとしない」と言ってからかいの種にしていた。だが、姉が島田さんのことを「ケチくさい」とか、「焦れ焦れすんだよね、あのひと見てると」などと辛辣にいうのを聞いて、父は「おれの友だちなんだから、気い使えや」とわりと本気の声で言い、「あれでもいいとこはあるんだしよ」と言い添えた。

朝日は、父がいう「パッとしない」には、親しみと尊敬と賞賛が込められているが、姉のことばは文字通り「パッとしない」の意味しかなさそうだと感じていた。

以上から、父が「わりと本気の声で言った」のは、国際大会での島田さんの成績が「パッとしない」のは事実ではあるとしても、なお尊敬と賞賛に値するのであり、そ

の長年親しくしてきた友人に対する娘（朝日の姉）の発言があまりに失礼なので、腹を立てるとともに、娘を厳しくたしなめようと思ったからだと考えられる。

問二 ——②「肝焼ける」という方言の意味を話の流れから推測して説明する設問。

「ただなんとなく肝焼けるだけ」という姉の発言は、文脈から、ケチくさくて、パツとしない印象の島田さんに対する姉の「なーんか焦れ焦れするんだよね、あのひと見てると」という発言と同じ意味であると推測できる。

したがって、「肝焼ける」とは、「じれったい」、「もどかしい」、「いらいらする」という意味であると考えられる。

問三 ——③「一年生の背負うランドセルみたいだ、というようなことをつづけて思った」朝日が、姉をどんな性格だと考えているのか説明する設問。

姉は、ポニーテールのしっぽの部分を引き締めて引っ張り、結び目のゆるみを直して洗い物をしながら、ケチくさく、パツとしない印象の島田さんを見ているといらだちを覚えるという（問二）。また、朝日がランドセルを手荒に扱うことも我慢できない。

そのような姉を朝日は「一年生の背負うランドセル」、革が硬くて、つやつや光り、縫い目もほつれていない新品のランドセルみたいだと思う。

それは、意志が強く、律儀で生真面目であるが、やや柔軟性や寛容さに欠ける姉の性格をとらえた比喻表現なのである。

問四 ——④「低く、湿った声に変え」て、姉が「そんなことをしたら、お母さんが悲しむ」といった理由を説明する設問。

姉は、朝日を産んだときに亡くなった母を引き合いに出すことが、朝日にいちばんこたえることを知っているのであろう。「低く、湿った声に変え」たのは、キーキー声で怒鳴った後、亡くなった母親の深い悲しみが朝日にきちんと伝わる声の調子に変えることで、ランドセルを手荒に扱う朝日に強く反省を促し、乱暴なふるまいを止めさせるためだ、と考えられる。

### 三 詩 蜂飼 耳『栞』

引越していった「あの子」と少しずつ気持ちが離れていくのがわかって、寂しい気持ちになる。しかし、櫛の木を見ると、「あの子」との思い出をくり返し思い浮かべることが出来る。いつか忘れてしまう出来事もあるかも知れないが、森には二人で一緒に作ったものがまだまだ残っている。それは「あの子」と友情という絆で結ばれていた証だ。「あの子」との楽しい思い出は決して消え去ることのない人生の大切な1ページなのだ。その真実を忘れずに前向きに生きていこう。

問一 「居場所を変えない櫛の木」が「葉のようにあかるい」とはどういうことか説明する設問。

葉のはさまれたページを開けば、本の読みたいところをすぐに読み返せるように、居場所をかえない櫛の木を見れば、これまでの人生の記憶の中から、引っ越した「あの子」と過ごした日々の楽しい思い出を、すぐに、はっきりとくり返し思い浮かべることができるのであり、作者にとって櫛の木は「あの子」との思い出の象徴なのである。

問二

(1) この詩の行の配置には、どのような見た目の特徴があるか説明する設問。

「見た目の特徴」を問われているが、次の設問(2)との関係で、詩の内容を無視して、形象的なイメージだけで答えることは適切では無い。行の配置はV字形をしているが、この詩の題名は「葉」であり、中央の9行目には「葉のようにあかるい」とある。

このV字形の行の配置は、葉をはさんだページを開いた本の形を想像させるという特徴をもつといえる。

(2) (1)の特徴は、どのようなことを表していると想像できるか、説明する設問。

引っ越していった「あの子」と少しずつ気持ちが離れていくのがわかって、悲しみは深くなっていく。

だが、葉のはさまれた本のページを開けば、読みたいところをすぐに読み返せるように、櫛の木を見れば、引っ越した「あの子」と過ごした楽しい日々をすぐに思い浮かべることができ、また、「あの子」と森で一緒に作ったものは「あの子」と友情という絆で結ばれていた証であり、「あの子」と過ごした日々は決して消え去ることのない人生の大切な1ページであると思ひ至る。

それで、「あの子」との思い出を大切に生きていこうと前向きな気持ちになるのである。

つまり、行の配置が本を開いた形になっているのは、「あの子」との楽しい日々が遠い過去になっても、「あの子」との思い出や絆は、本に書かれた物語のように、決して消え去ることはなく、人生の大切な1ページとして心に刻まれていて、くり返し思い出せることを表していると想像できる。

また、行の配置がV字形になっているのは、作者の気持ちの変化を表していると想像できる。すなわち、引っ越していった「あの子」と少しずつ気持ちが離れていくのがわかって、悲しみが深くなっていくが、「あの子」との思い出や絆は決して消え去ることはないと考えて、「あの子」との思い出を大切に生きていこうと前向きな気持ちに変わっていることを表しているのである。

～合格のために～

- 本年は漢字の書き取り問題が出題されなかったが、来年度に再び出題される可能性がある  
るので、漢字の学習を怠らないようにしよう。特に題材にされることわざは漢字かなま  
じりで書けるように日ごろから書き取り練習をして覚えよう。
- 文章中に明示されている心情・要点を網羅すれば得点できる問題は8割以上正答できる  
ようにしておこう。
- 文章中に明示されている内容に基礎をおいた合理的推論が必要となる問題は7割以上正  
答できるようにしておこう。
- 特に高度な着想力を要求する問題については5割前後の部分点を確保できるようにして  
おこう。
- 満点を取る必要はない。7割確保できれば、合格できる。
- 本校の国語では、高度な読解内容を、簡潔にして要を得た表現で論述することが求めら  
れる。書くべき事柄に気づいても、いざ書くとなるとコンパクトにまとめ上げることが  
難しい。
- 担当の先生から直接アドバイスを受けられる環境で、合格答案になるまで粘り強く書き  
直し作業を繰り返すトレーニングが有効である。丁寧な記述問題演習・過去問演習を積  
み重ねて、本校の出題傾向に対応できる国語力を身につけよう。